

ミャンマー女性の人権訴え

軍事政権が続くミャンマーでの女性への暴力や人権侵害を訴える「ビルマ女性国際法廷」が6月27日、東京で開かれた。市民団体「ビルマ女性連盟」(WLB)と日本の弁護士らによる「ヒューマンライツ・ナウ」(事務局長・伊藤和子弁護士)が企画した模擬法廷。WLB理事のティンティンアウンさん(46)『写真』は「私たちの国の実情を知ってほしい」と呼びかけた。

自身も88年の民主化闘争後、インドに逃れてWLBの設立(99年)に参加。今

ひ・と・も・よ・う



回は、同じく国外で避難生活を送る被害女性らと来日した。「不正な文書を配布した」との理由で逮捕された活動家の女性(33)は「警察の尋問で拷問を受けた」と証言。少数民族の女性(34)は道路建設の強制労働に駆り出され、兵士から性暴力を受けた少女もいたという。土井香苗弁護士(34)は「国連による独立調査団の設置が必要。日本政府もそれを支持すべきだ」と指摘。ティンティンアウンさんは「同じアジアの日本からの支援は力になる」と語った。

【明珍美紀】

人・模・様